

2-1

石野 百合絵 さん

令和元年3月卒業 / 小学校教諭

～まず、私の4年間は悔いなし！～

やりたいことをやってきた4年間だった。

無駄かもしれないことでも、それをやっていたら、結果「心豊か」になっていた。

学生に伝えたいことは？

- ◆ たのしむ！！は 何にも勝てない
- ◆ やってみる！！は 何にも勝てない

大学生って、本当に社会的に許される。いろんなことに挑戦できる。

高校のときは制限があるけど、大学は自分が選択する機会ができる。

今、社会人3年目だけど、あんなに自由だった時間はないとつくづく思う。

その中でも、挑戦して失敗が許されることが大きい。

成功ではなく、失敗したことがとても大事だったと思う。

失敗したからこそ、気づけたことが大きい。失敗したら、なぜ失敗したのかを

考えようとするし、その過程を大事にできるから。



H29年9月
3年生で参加した
「子どもフェスタin兵教」
料理ブースを担当



H30年2月
「ネットワーク交流会」
不登校支援ボランティア
について学生発表！



R3年現在
小学1年生の担任です。
毎日楽しく頑張っています！

ポラステ つなぐ ストーリー

卒業後の自分を想像する センパイからのメッセージ

2-2

石野 百合絵 さん

令和元年3月卒業 / 小学校教諭

ボランティアで一番学びが大きかったのは？

不登校の子と関わるボランティアだった。

不登校支援のボランティアは、うまくいかないことの方が多かった。

だから、なぜうまくいかないのかをいっぱい考えた。そこで何がどう自分と違うのかを何度も真剣に考えた。その中で、私と違う部分を分かりたいと思えるようになった。

その時、自分の心の動きを感じた。

それは「理解する力」ではなく「理解しようとする力」だった。

今、教師をしながらその時の経験が活かされていると思う。

私は「一人ひとりとちゃんとかがわらないと集団は動かない」ということを軸としている。

一人ひとりをちゃんと理解しようという「一人ひとりとかがわる」を大事に、枠組みにはめ込めようとせず、子ども一人ひとりのゴールを目指す。

でも、外れてもいいよ。という気持ちも忘れずに。

H27年12月
不登校支援ボランティア先で
よさこいを披露



大学時代

かけた思いが一番強かったのが

ボランティアだった。



ポラステ つなぐ ストーリー

卒業後の自分を想像する センパイからのメッセージ